

『U12ブロックDC マンツーマン推進講習会』

日本バスケットボール協会
ユース育成部会・マンツーマン推進プロジェクト
牧野広良

I. 素晴らしい指導者

～パワーポイント～

II. 素晴らしいコーチング

～パワーポイント～

III. 指導者の心得

～パワーポイント～

IV. 育成マインド

～パワーポイント～

V. マンツーマン推進の有効活用

～パワーポイント～

VI. バスケットボール界におけるMCの貢献

～パワーポイント～

VII. 知識と実践

～プリント・画像・動画～

1. マンツーマンの必要性

(1) なぜマンツーマンが必要か？

マンツーマン推進プロジェクト 2018. 4月リーフレット参照

http://www.japanbasketball.jp/wp-content/uploads/U15mandf_Leaflet_20180401.pdf

2. マンツーマンディフェンスの基準規則のポイント =第1節 基準規則=

(1) マンツーマンディフェンスをしていることが分かる現象の理解

①アイコンタクトや言葉のサイン

②指差しなどの手のサイン

③ボールやオフェンス側プレーヤーの移動に合わせての位置の移動

(2) 上記の現象を明確にプレーヤーが表現し、それをコミッショナーが理解すること

(3) ディフェンスのスタート

①チームとして付き始めたエリアから

②マッチアップエリアから

上記のいずれか先におきた事象から基準規則の関与となる。

(4) オフェンスをとらえる姿勢

(5) ヘルプサイドディフェンス

ヘルプサイドのマークマンにマッチアップするディフェンス側プレーヤーは、片足または両足がヘルプサイドに触れていること。ただしヘルプまたはトラップに行く場合を除く。

(6) トラップディフェンス

①定義：ボールをスティールできる距離における数的優位な守り方

⇒両者（複数人すべて）トラップの状態になければならない。

②トラップの条件（U12のみ）

【オンボール】・・・以下のⅠ～Ⅲの条件のいずれかに合致していればトラップできる。U15は、オンボールであればトラップできる。

Ⅰ)ドリブルが行われているとき、またはドリブルが終わったとき。

Ⅱ)パスが空中にある間に移動できる距離で、パスを受けた瞬間にトラップを成立させることができるとき。

Ⅲ)自分のマークマンとボールをコントロールしているオフェンス側プレーヤーとの距離が2～3mで、移動が容易にできるとき。

【オフボール】・・・以下のⅠ以外にオフボールでのトラップはできない。（U12・U15）

Ⅰ)制限区域内において、予測に基づいて（オフェンス側プレーヤーの両足が制限区域外に触れているときは該当しない）トラップすることはできる。

(7) プレスディフェンス

マッチアップの基準は採用される。

（ゾーンディフェンス・コンビネーションディフェンスを行ってはいけない。）

3. 事例研修

(1) 演習問題

適していると思えば○を、適していないと思えば×を記入してください。

- ① Aチームがし始めたディフェンスにMCは違和感を感じた。2秒ぐらいたってから、ゾーンプレスだと気づいたのですぐに黄色旗を振り始め2秒経過したところで、まだ続いていたので赤旗に変えた。 【 】
- ② プレーを理解していないと思われるAチームのプレーヤーが、自分のマークマンを意識することが少なかった。プレーにも影響してなかったため、黄色旗をあげなかった。 【 】
- ③ Aチームのコーチは、Bチームのディフェンスに対して、「ゾーンだ」と聞こえるような声で、アピールしている。更にはMCに対して、「なぜ旗をあげないのか。」

と声をあげた。審判に聞こえてなかったようなので、次の時計がとまったときに、速やかに審判にそのことを伝え、審判の処置に任せた。結果としてAチームのコーチにテクニカルファウルが宣せられた。【 】

④ ヘルプサイドのディフェンスを限定して見ていたMCが、自分のマークマンを捉えずボールしか見ていないAチームのヘルプサイドにいるプレーヤーに対して、黄色旗をあげた。【 】

⑤ Aチームに1度目の赤旗があがり、その最中にAチームがボールをスティールしてドリブルを始めた。その瞬間に時計は止めたが、ブザーを押すことができずに、そのままプレーは流れ、Aチームがドリブルシュートをカウントした。審判の得点の合図とともにブザーをようやく鳴らすことができた。審判に説明した所その後の処置は、Aチームの得点を認めず、ボールをスティールした近くからのAチームのスローインとなった。【 】

(2) 研修問題・・・別紙

活用時には、解説をしっかりと伴うこと。

4. 留意点=第3節 マンツーマンコミッショナー=

(1) 技術不足

技術不足による故意ではない違反行為が発生する可能性があるため、それをしっかりと見極めることが大切。

(2) コミッショナーの役割

マンツーマンディフェンスを普及・推進すること。違反が目立つ場合は、ピリオド間、ハーフタイムを活用し、コーチにしっかりと説明を行う。

(3) マッチアップの判定

オフボールディフェンスについて、手のサイン等があっても「明確に」という文言があてはまらない場合は、コミッショナーがマンツーマンをしていないと判断する場合がある。

(4) オフボールディフェンスの判定

① 2線（ワンパスアウェイ）と3線（ツーパスアウェイ）のディフェンスについて、オフボールディフェンスのプレーヤーとマークマンの距離の指定はないが、マッチアップが明確でない場合は注意や警告の対象となる。

③ オフェンス側チームが1人のプレーヤーだけでオフェンスを行うことが明らかとなるとき、オフボールのディフェンスプレーヤーは、マークマンを少しでも捉えていれば、常に移動していなくても、注意や警告の対象としない。

5. マンツーマン推進ケース動画

<https://youtu.be/xh2JpMFVvgw>